

**Japanese Utility Model Application**

**Publication Number: S36-28407 Y**

Date of Publication of Application: October 31, 1961

Application Number: Japanese Utility Model Application S34-11625

Filing Date: February 28, 1959

Applicant: Matsushita Electric Industry Co., Ltd.

Inventor(s): Etsuji YOSHIKAZAKI

**Title: Diaphragm Made Of Synthetic Resin**

[Claim]

A structure of a diaphragm made of a synthetic resin as shown in the drawings, in which an adequate number of holes 3 are provided on a periphery 2 of a conical diaphragm 1 consisting of a synthetic resin plate, and a thin film 4 for covering the holes 3 is formed by applying a solution of a flexible substance to a portion where the holes 3 are provided.

公告 昭 36.10.81 出願 昭 34.2.28 実願 昭 34-11625

考 案 者	吉 村 悠	大阪府北河内郡門真町大字門真1006 松下電器産業株式会社内
出 願 人	松下電器産業株式会社	大阪府北河内郡門真町大字門真1006
代理人 弁理士	吉 崎 悦 治	外1名 (全1頁)

## 合 成 樹 脂 製 振 動 板

## 図 面 の 略 解

才1図は本案に係る振動板の要部を拡大して示した側断面図、才2図は同要部の平面図である。

## 実 用 新 案 の 説 明

一般に、拡声器用の合成樹脂製振動板は合成樹脂板から成型して均一な製品を量産できる特長があるが、周縁部の厚さを変えることが困難なため周縁部の硬さを自由に変化できない。このため周縁部に孔を透設すればよいが、低音部の能率が低下するため大きな穴が避けられず、特性の自由な調整ができなかつたものである。

本案はこの点を改良したもので、図示のように塩化ビニール、ポリスチロール、ポリエステル等の合成樹脂板を成型して円錐状の振動板1を形成し、この振動板1のホルゲーションを附した周縁部2に、該周縁部2が所要の柔らかさになるように直径1~2mmの円形等適当な大きさの孔3を複数個透設し、この孔3を設けた部分に醋酸ビニール系塗料、合成ゴム系の塗料等の塗布後硬化しない柔軟性物質の溶液を塗布し、孔3を覆う薄膜4を形成したものである。5は一体に形成したボイスコイルボビンである。

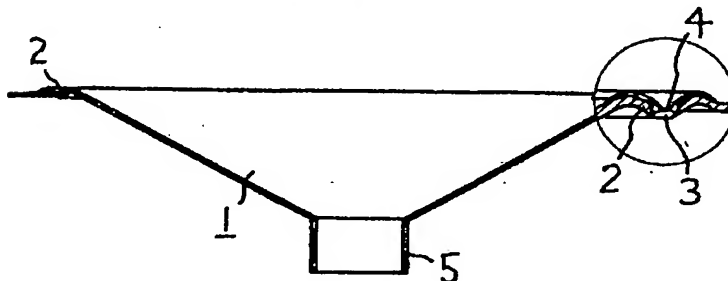
上記の孔3の配列は円弧状等任意に選ぶことができ、孔3の形状も円、楕円等任意である。

本案の振動板は上述のような構造であり、本案によれば孔3が薄膜4でふさがれているために、低音部の能率が低下するおそれはなく、孔3の大きさや個数は自由に選ぶことができ、周縁部2の硬さの変化範囲が大きくなるため特性の調整が非常に自由になり、また孔3をふさぐために別個の柔軟な薄膜を貼つける場合のような手数はかからず簡単に孔3をふさぐことができ、振動板の周縁部のみ別の柔軟物質で環状のものを作り、振動板の周囲で接着する場合と比較しても工程が非常に簡略化され、また薄膜4を形成する材質を適当に選ぶことにより制動作用を行わせることもできる等の利点があるのであり、本案は実用的効果の大きなものである。

## 登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように、合成樹脂板よりなる円錐状の振動板1の周縁部2に適数の孔3を設け、この孔3を設けた部分に柔軟性物質の溶液を塗布して孔3を覆う薄膜4を形成した合成樹脂製振動板の構造。

第1図



第2図

